

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井945番地		
自己評価作成日	令和1年9月5日	評価結果市町村受理日	令和2年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JievosvoCd=2170400465-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和1年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外にある手作りの畑では、季節に合った野菜を育て利用者様に作り方など教えて頂きます。皆様で収穫を楽しみにしておられ美味しく頂きました。 一人一人の時間を大切にゆっくりと過ごして頂いております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、アットホームな雰囲気があり、利用者一人ひとりが望む生活を把握しながら、夜にはお茶の時間を設けて、利用者同士の集う時間も作っている。代表者も積極的に利用者との関わり、管理者と職員の意見に耳を傾けながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。年に1度、家族アンケートを行い、運営推進会議で報告し、改善に活かしている。職員の介護技術向上のためのDVDと冊子「基本のき」を作成したり、岐阜県介護人材育成事業者認定制度のグレード3を取得するなど、全職員が一丸となって、利用者が安心して暮らせる事業所づくりに取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼・夕礼に復唱し常に忘れないようにしています。また、ミーティングで話し実施・実行できるように心がけてます。	理念に沿った支援の実践について、ミーティングで話し合い、振り返りの機会として、定期的にテストを実施している。理念を覚えるだけでなく、その意味を浸透させるよう、繰り返し話し合い、日々、支援の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会のお祭りや、お花見、花火大会に参加し町内の方や地域の方と接する機会を設けています。	回覧板で地域の行事や情報を得て、職員は地域の一員として市民清掃に参加している。子供会の祭り際には、訪問した子どもたちと写真を一緒に撮り、利用者も楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩へ外出したり外食等出かけたときには地域の方と会話をしたり楽しんでおります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、包括の方、町内会の方、家族の方に参加して頂き、現状の報告や意見交流をしています。	運営推進会議には、民生委員や地域住民の参加を得て、活発に意見交換をしている。また、介護への理解を深めてもらう為、法人代表が作成したDVD「基本のき」の鑑賞会も行うなど、介護に関する情報を発信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方のお世話をさせて頂いています。	様々な相談や事務連絡、書類の手続きなどで市役所へ赴いた際には、担当者との情報交換をしている。電話連絡だけでなく、直接、窓口に出向くことで、信頼関係及び協力体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの上で休まれる時に転落の危険があるため家族の方の了承のもと4点柵使用にて様子を見ていたが、現在は使用はなく休まれています。玄関のカギは徘徊が強固施錠しています。	利用者の安全の為、やむを得ず、身体拘束をしなければならない状況が生じた場合、対応方法を明確化し、出来る限り拘束のない代替え体制を整えている。玄関の施錠は安全面に考慮しつつ、見守りながら可能な限り開錠し、利用者には閉塞感を与えないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな事が虐待となりうるのか等ミーティングで話し合っています。		

岐阜県 グループホーム夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで権利擁護に関することを話し理解と活用について学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にホームの見学をして頂き説明や家族の方の不安・疑問に思われたこと答え理解していただく様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた時にはお話しする時間を作り意見や要望を聞き運営に反映しております。	面会時や電話等で家族と話し、要望があれば速やかに対応している。家族にはホーム通信の他に、毎月、個別に手紙を書き、利用者の日常の様子や活動内容を伝えるなど、家族が意見を表出しやすい関係づくりに努めている。	家族に、利用者の認知症の進行状況や症状を伝えている。今後も、日常のケアへの理解をさらに深めてもらえるよう取り組み、家族の意見や要望を引き出す工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度行うミーティングや勉強会を通し利用者様の希望などケアマネに聞きながら反映しています。	代表者は経営状況をオープンにし、支援方針などを職員とも話し合っている。施設長、管理者と共に、職員から出される意見を受け止め、より良い支援が実践できるよう、改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度の健康診断を受けています。(夜勤者は2回)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市で開催される研修や市民病院の研修に参加し、ミーティング等で話し全職員の者に行っています。施設内でもペーパーテストや実技テストを行いレベルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で会うほかのホームの方と交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の希望があればケアマネ、ホーム管理者が病院やご自宅に訪問し、家族や本人様の希望を聞き、安心して入所して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安と思うことに対して十分に理解し、安心して入所して頂ける様、いい関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族の要望と必要とされている支援を、ご家族・ケアマネ・管理者で集まり十分話し合い検討し対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとう」の言葉を忘れず、感謝の気持ちを持ち、利用者様には最後に良い人生だったと思って頂ける様に努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度生活便りを書き、写真を添えたりとホームでの生活を知って安心して頂く。面会時にはお茶をしながらゆっくり話が出来る様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩中の近所の方が庭にいる利用者様と会話されたり野菜を届けてくださいます。	利用者の高齢化と共に、知人も同様であり、来訪者は減少しているが、散歩中に近所の人との会話を楽しんだり、買い物は近隣の店を利用するなど、関係を継続できるよう支援している。同法人事業所間で交流する機会を設けることで、新たな馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や広間に過ごされている時など利用者同士の会話に職員も混ざり一緒に会話を楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族の方から電話や手紙を頂いたり、お菓子や野菜を持ってきてくださることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜のお茶時(19時頃)の時間が職員もゆっくりとできる事もあり、一日の会話や不安なことなどを聞きミーティングの場で話し合っています。	利用者との会話や関わりの中で汲み取った思いや、入居前の習慣を大切に、意向に沿った支援に努めている。就寝時間や食事の時間は決められているが、無理強いせず、個々のペースに合わせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントを行い把握するように努めています。家族の面会時に伺ったり居室のケアマネからも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルチェック、徘徊、食事、水分摂取、医師の往診、訪看の健康チェックなど相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時、サービス担当者会議を行い意見を反映している。家族には電話や面会時に伺い、先生にも尋ねている。	モニタリングは毎月実施し、職員ミーティングや普段の生活から得られた気づきを介護計画に反映している。計画の内容は利用者、家族、職員、誰もがわかりやすい表現を用いて、目標がわかりやすいよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と申し送りを見て次の日の状況を確認し確実に伝えている。ケアプランにも生かしてもらおうこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りノートの確認。その時のニーズに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農業地なのでゆっくり散歩する事もでき、クリーン作戦も利用者様が自主的にされることもあります。ランチにも行ったりと楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は希望があればその先生に往診をお願いし不安の無いように努めています。希望がなければホームの主治医にお願いしています。	従前のかかりつけ医が継続できることを、利用者と家族に説明している。専門医への受診は、利用者の状況を伝えて家族が対応し、受診結果を共有している。るよう支援している。緊急時には、職員が対応し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を今は毎週、以前は月に2回、24時間対応の訪看に来ていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はご家族に了承いただき、医師、看護師から情報を得るようにしています。入院中はできる限り身の回りのお世話をさせて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはご家族の希望もあり病院かホームで終末期を迎えるのか十分話し合っています。終末期をホームで迎える方が多くなったので主治医、看護師の支援が受けられるようにしています。	契約時に、事業所に対応できること、できないことを説明した上で、その都度、利用者や家族の意向を確認している。終末期は、主治医や訪問看護と密な連携を図りながら、本人が穏やかに最期の時を過ごせるよう支援に取り組んでいる。	看取り経験がある職員が多いが、より柔軟に支援できるよう、死生観の共有や終末期の対応を改めて考える機会として、定期的な研修実施を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、手当等、講習を受けている。防災訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年二回実施。訓練には近所の方にも参加して頂けるようお願いしています。夜間での災害を想定し訓練してます。	近隣住民の参加も得て、夜間想定を含めて避難訓練を実施している。避難の際の混乱を避ける為、各居室入り口には、避難確認の札をかけている。荒天による警報が出された際は、法人全体で安全確認を行い、利用者及び職員の安全確保をする体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時の声掛けの仕方や対応など人格を尊重しプライバシーを損ねない声掛けや対応をしている。(本人のそばまで行き伺うなど)	運営推進会議やミーティングの中で、日常的な声掛けや支援方法について話し合い、検討や振り返りを行っている。また、職員自身が、常に感謝の気持ちを持ってケアにあたり、利用者一人ひとりの尊厳を守りながら信頼関係の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	車椅子利用者もおり外出、散歩は希望者だけで行うこともあります。庭での日光浴はなるべく全員で行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気分や体調に配慮し一人一人のペースを大切に支援することに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が好まれる服やパジャマ等着ていただいています。希望により美容院へ出掛けます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のへた取り、里芋の皮むきを一緒に行ったり料理を利用者様から学んだりしています。誕生日にはその方の好みの食事を作ったりしております。	利用者のリクエストを聞きながら献立を考え、三食とも職員の手作り食を提供している。職員は利用者の横に座り、食が進むよう声掛けをしながら支援している。また、飲食店の協力を得ながら、定期的に外食を実施し、日常と異なる食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日摂取カロリーを基にしており水分もとって頂ける様にしています。夜間は自分でいつでもとれるようにペットボトルにお茶を入れ渡しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の洗面、はみがきは介助が必要な利用者様に対してはスポンジを使ったりして口腔ケアに努めています。歯医者を受診もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく夜間オムツ使用されている利用者様も昼間は布パンツ、もしくは紙パンツで過ごして頂けるよう対応し声掛けにてトイレで排泄して頂くことを支援しております。	利用者の意向に沿って、排泄用品を選択して支援している。状態によっては、ポータブルトイレを使用する人もある。排泄による汚染が想定される場合でも、職員都合で紙オムツに変更することなく、必ず、本人の意向を確認しながら対応し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の水分補給(コーヒー)。整腸剤、座薬の使用も医師の指示で行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっており全員入られます。入浴されない方には清拭や足浴も行っています。	週2回(夏場は3回)を基本とし、入浴でリラックスできるよう支援している。介護度が高くなっても、複数体制で介助を行い、可能な限り利用者が湯船に浸かり、ゆっくり入浴できるよう支援している。体を洗う時には、利用者の自立を妨げないよう、手を出し過ぎない事を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は21時ですが自室でテレビを見られる方もあり、音量には気を付けて頂き他の方の睡眠を妨げないようにしてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと投与しています。眠剤・下剤・とんぶくで処方された薬は申し送りノートに記入し全職員が変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりを配って頂いたり、野菜を育て収穫したり自室に育てた花を飾って楽しんでいる利用者様もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩や日光浴をします。室内ではテレビ体操をしたり家族と外出される方もおられます。ランチにも行っています。	天気の良い日は、散歩に出かけ、近所の人との立ち話を楽しんでいる。外出をためらう人には、外気浴で気分転換できるよう工夫している。職員は、利用者の希望に沿った外出支援について、出来る限り実現できるよう話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にてもっておられる方には買い物をたのまれることもあります。基本自分のお金は置いていままので家族と外出された時は家族の方と買い物されてます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があればできるようになっています。家族に自分から電話し、面会時間かれる利用者様もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	会話できる方同士のテーブルにしています。玄関には花をかざったりと四季を感じて頂ける様にしています。	庭や玄関には鉢植えがあり、季節を感じることができる。共用のスペースには、利用者と職員の共同作品や行事の写真を飾り、家庭的な雰囲気がある。空調は、座る場所によって、利用者が感じる温度差を減らせるよう工夫し、過ごしやすい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、椅子に座ったり、テレビを見られながら話をしたり流れる歌を口ずさんだり楽しんでいる姿も見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自、好きなようにして頂いています。家具やテレビも利用者様の好む場所に配置したり花をかざられたりとしておられます。	個々の部屋の造りは異なるが、それぞれに家具の配置を工夫し、過ごしやすい居室づくりをしている。利用者は、昼寝や掃除、花の水やり、テレビを観るなど、自分の時間を自由に過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事は続けて頂けるよう見守りをするようにしています。(助言程度で)できた時などは一緒に喜びを共感する。		